

リスクマネジメントをJAの経営改善や改革に適合させていくことは、P(Plan)計画、D(Do)実行、C(Check)評価、A(Act)改善といった一般のマネジメントサイクルに乗せていくことにはかならない。

実際、JAの例では、リスク管理委員会がリスクのモニタリング(監視)と情報の共有、経営改善、改革案づくりを行い、作成案を経営者が承認、現場が実際の行動を起こし、企画部門で検証を行うといった仕組みをとっている。

職場のマネジメント

66

重要なのはリスクのモニタリングと改善計画づくりの場、経営の意思決定・マネジメントの場を分離

経営改革のポイント

ユフロー(現金収支)の最大化を共通認識としてい
る。
金融関係のリスク量に
しても、算出は将来のキャ
シュフローが基本である。
目標利益の設定にしてもキ
有、経営改善、改革案づく

共通尺度で情報供給

させることである。また、JA経営全般を見渡せる
企画部門が成果やリスク
量の確認、現業との調整・
けん制機能を担う。その
際、共通の尺度が必要にな
る。このため経済事業の
投資回収などではキャッシ

ヤッシュフローの獲得が基
本になる。
企画部門が現業との共通
言語を持たば、現業だけの
提案ではなく、経営全体や
財務の視点からの意見交換
ができる。現業と企画で案
作りを行うことで実現可能

りも主要部門が集まって
検討する。こうした場を通
じて特定部署だけではな
く、直接的に関係のない部
署も経営全体の課題を共
通知識として認識し、将来
の課題や対策を全体が明
確に意識・共有することが

できる。

JAの実際の場面でもリ
スクマネジメントの仕組み
を導入することで億円単位
の収支改善が実現されてい
る。リスクマネジメントに
よる経営改革のポイント
は、マネジメントの場の形
成と分析力、情報の共有化
とけん制、企画機能であ
り、最後は経営者の決断力
にある。

(JA総研主席研究員・
加島徹)この項おわり)
(次回は9月1日付。そ
れまで毎週水曜日付で産
業組合運動に尽力した新
渡戸稲造の功績を振り返
る特別企画を掲載します)